

令和3年11月16日

報道関係各位

公益財団法人水戸市芸術振興財団

「第31回吉田秀和賞」贈呈式ご取材のお願い

拝啓 季秋の候、ますます御清祥のこととお喜び申し上げます。

さて、平成2年に創設いたしました吉田秀和賞は、優れた芸術評論を発表した人に対して賞を贈呈し、芸術文化を振興することを目的として当財団が運営しております。

第31回目となりました今回は、昨年に引き続き審査委員に磯崎新氏と片山杜秀氏を迎え、厳正に審査を行ない、前田良三著『ナチス絵画の謎—逆襲するアカデミズムと「大ドイツ美術展」』（みすず書房 令和3年3月刊）を受賞作品として発表いたしました。つきましては、賞の贈呈式を下記のとおり行う予定です。ご多用のところとは存じますが、ご取材いただけましたら幸いに存じます。

敬具

記

日時 : 令和3年11月19日(金) 17時から18時(16時半からプレス受付)
会場 : 水戸芸術館 会議場
内容 : 表彰状の授与／講評／受賞者あいさつ ほか
受賞者 : 前田良三
肩書き : 立教大学名誉教授

「吉田秀和賞」について

- 対象 音楽・演劇・美術などの各分野で、優れた芸術評論を発表した人に対して
- 正賞 表彰状 ■副賞 賞金 200万円
- 審査委員 磯崎 新 建築家
片山杜秀 評論家・慶應義塾大学法学部教授

[著者略歴]

前田良三（まえだ りょうぞう）

1955年鹿児島市に生まれる。東京大学大学院修了。ドイツ・ボン大学 Dr. phil. 埼玉大学助教授、一橋大学助教授、立教大学文学部教授（ドイツ文学）を経て、現在は同大学名誉教授。ボン、ケルン、フンボルト（ベルリン）、チュービンゲン、ワシントン（セントルイス）各大学で招聘研究員・客員教授。主な著作に、『可視性をめぐる闘争—戦間期ドイツの美的文化批判とメディア』（三元社 2013年）、Mythen, Medien, Mediokritäten. Zur Formation der Wissenschaftskultur der Germanistik in Japan (Fink 2010年) など、また訳書として、『トーマス・マン 日記 1918—1921』（紀伊國屋書店 2016年）、テオドール・アドルノ『文学ノート 1・2』（共訳 みすず書房 2009年）などがある。

【お問合せ先】公益財団法人水戸市芸術振興財団

〒310-0063 茨城県水戸市五軒町1-6-8

TEL 029-227-8111 FAX 029-227-8110

吉田秀和賞担当 川崎